

学習者用モバイル観察支援ツール FishWatchr Mini を用いた 話し合い活動評価の実践

柳田直美（一橋大学）／＜共同研究者＞山口昌也（国立国語研究所）
2018年度日本語教育学会秋季大会（於：プラサヴェルデ）

本発表の目的

■FishWatcher Mini (FWM)

- ・話し合い活動と同時進行で評価が行え、観察者全員の評価が統合・可視化される
- ・振り返り時に評価の対象となった行動を音声や映像で参照できる
- ▶大学での話し合いの教育実践における FWM の活用の可能性と課題を検証する



FWM

<https://csd.ninjal.ac.jp/f/m.html>

- HTML+Javascript で記述された Web アプリケーション（インストールなしで Web ブラウザから利用可）
- 山口昌也氏（国立国語研究所）開発
- 使用者が最大 2 種類の評価属性を設定可能



図1 FWM の観察時の画面

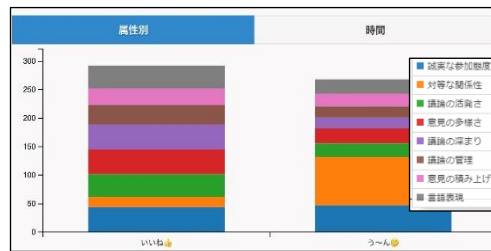


図2 属性別評価結果(いいね/う〜ん)



図4 時系列評価結果(いいね/う〜ん)

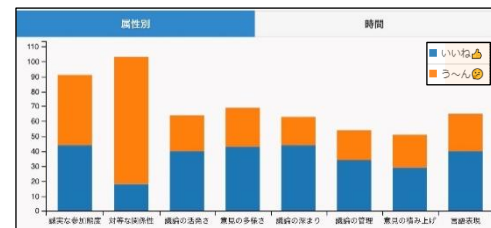


図3 属性別評価結果(評価観点)

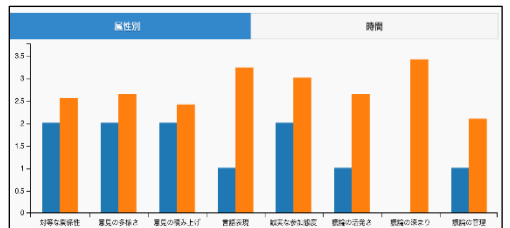


図5 属性別評価(個人 / 全体)

実践の概要

- ・日本人学生対象の授業：A 大学・約 25 名（2018 年 4 月）
- ・上級レベルの留学生対象の授業：B 大学・約 30 名（2018 年 5 月） 各 1 コマ
- ・方法：話し合いのビデオデータを上映し、全員が観察者となって観察・評価
- ・環境：ビデオデータを上映するためのパソコン、プロジェクタ、スピーカー、FWM にアクセスするための Wi-Fi
- ・ビデオデータ：話し合い①② 韓国人学生 2 名（日本語レベル上級）と日本人学生 2 名による約 15 分間の日本語での話し合い。テーマは「監視・防犯カメラ設置の是非について話し合い、グループの結論を出す」

(1)FWM の準備・練習 → (2)話し合い観察 → (3)振り返り(全体) → (4)振り返り(個人/グループ)
 グラフをスクリーンで見せながら↑ グラフを個人のデバイスで見ながら↑

実践の結果と分析

- 動作性：ほぼ問題なし(iPhone, android, Android タブレット, iPad など)
- 評価活動の結果：FWM の使用方法の理解に受講生間で差
- ・日本人学生：ほぼ問題なし
- ・留学生：2 種類の評価属性が使用できるように FWM の動作モードを設定していなかった →丁寧な説明が必要
- 学習者の反応：
 - A. FWM を用いた評価活動に対する感想：評価結果がグラフでパッと見ることができるとても分かりやすくていい / FWM は使っているとボタンをどんどん押したくなった / 使いやすいけど、グラフが少しわかりにくいがあった
 - B. 他者の評価との違いの認識：みんなと考えがだいぶ違ってびっくりした / 他の人の意見も見られると、自分の考えと照らし合わせることでできたり、反省にもつながると思ったので、次の話し合いがよりよくなるのではないかと思った
 - C. 自己の話し合いのふりかえり：高校時代に部活で話し合いをしていた時のことを思い出した。自分はよく聞いていて、話が別の方向に流れると割って入って題をただすことをしていたなあと思った。

分析結果のまとめと考察

- FWM を用いた評価活動の効果：評価の傾向や互いの評価の差異が明確になり、気づきの共有を促進する
- 今後の課題：FWM の機能向上、実際の話し合いでの運用、評価研究への応用